白鳥会 大阪府立大学 看護学系同窓会 会報誌

Vol. 19（2019.3.）

看護系同窓会のネットワークを広げましょう

生活支援看護学領域　地域看護学分野　教授　上野　昌江

卒業生・修了生の皆さま　いかがお過ごしでしょうか。大学の今は、学類生の試験が終わり、大学院生の論文審査が修了し、卒業・修了される方々を送り出す準備のまっただ中ですが、心地よい緊張感と達成感の空気が漂っており、教員にとっても一番うれしい季節になっています。

皆さまは今、外国、日本、大阪とさまざまな場所で、ご自身のライフイベントにあわせた看護職としての活動を展開されていることと思います。平成６年に大阪府立看護大学に入学された１期生から今年度大阪府立大学地域保健学域看護学類を卒業される方々を含めると看護系同窓会員は2,000人を超えます。さらに博士前期課程、後期課程の修了生を加えると2,500人以上となり、全国の看護職全体110万人の0.2%を占めることになります。この数字が大きいのか小さいのかわかりませんが、確実に卒業生・修了生の輪が広がっています。

昨年９月、白鳥会創設20周年記念第16回同窓会総会では、多くの皆さまにお会いでき懐かしい、ほっとするひとときを過ごすことができました。また、各地の研修会や学会などに行きますと「先生覚えていますか？看護大学○期の○○です」「府立大学看護学部○期卒業の○○です」「地域保健学域卒業の○○です」と声をかけていただくことが多くなりました。皆さまが本当に全国で活躍されていることを実感するこの頃です。

先日は大阪府立大学東京同窓会に現会長の真砂隆太朗さん、前会長の前田一枝さん、杉本吉恵先生、奥田邦晴地域保健学域長と共に参加してきました。このなかで私が感じたのは看護系という同窓会のネットワークの大切さです。東京同窓会は関東に居住されている方々を中心とした同窓会で、看護学部卒業の方の参加はまだまだ少なく、経済学部や農学部、工学部の方々に圧倒されています。今年も山田昭正東京同窓会長から「来年こそは、看護系の参加者を増やしましょう」と励ましていただき、細々ですが、看護の存在を伝えていきたいと思っています。

さて、看護系同窓会2,500名はどのようにつながっていくのでしょうか。卒業生にお会いすると、意外にも同じ職場に先輩、後輩がいることを知らなかったということをお聞きします。今の時代（昔もそうですが）、職場に入ってからは一看護職ですので、自ら出身大学を明らかにすることは少ないため、ごく近くに先輩、後輩がいるにもかかわらず知らなかったという状況になっているようです。その責任の一端は私たち大学にもあるのではと感じ、同窓会を通じて縦と横のネットワークが活性化できないかと考えています。

ネットワークを活性化するとはどういうことでしょうか。働きやすい職場をつくっていくためには、看護の原点で同じ学びをした人の存在は大きいと思います。また、学びたい、新しい知識を得たい、もっと勉強したい、今の看護を変革していきたいと思ったとき、それを行動に移したり、大学院進学を考えたりするとき、同窓会ネットワークの存在が活きてきます。ライフイベントで看護職を休んでいるけど、そろそろ仕事を始めたいと考えている方にとっても看護系同窓会のネットワークは貴重です。大学教員の私たちも大学院や教員の募集ではいつも卒業生・修了生の情報を求めています。そのときにさっとつながることができるのが、同窓会、そして同じ看護の原点をもつということの強みです。

ネットワークといえば、昨今の府大と市大の統合についても関心をお持ちの方も多いと思います。府立看護大学、府立大学はどうなるのだろうかと心配されている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

大学統合に向けての動きですが、いよいよ４月から大阪府立大学と大阪市立大学の法人統合が行われ、「公立大学法人大阪」が発足、一法人２大学（大阪府立大学、大阪市立大学）がスタートし、2022年には２大学統合を目指すことになります。大学の組織としては、現在の地域保健学域看護学類は、看護学部（仮称）、大学院は看護学研究科となる予定で、そこに向けて、入学定員、学科構成、教員組織、教育内容などの準備があわただしく進められているところです。公立大学ですので、設置者の意向により大学名が変わっていくことは宿命ですが、私たちのルーツは大阪府立看護大学にあり、その後大阪府立大学看護学部、大阪府立大学地域保健学域看護学類という発展に変わりなく、そこに新大学が誕生することになります。看護の原点を同じくする卒業生、修了生が増えていくことの頼もしさと力強さを感じます。日本の看護職全体の１％を府立看護系同窓会が占めるというのも夢ではない時代が来るかもしれません。それは看護全体の質向上にほかなりません。その時代に向けて、ネットワークを広げ、学士課程と博士前期課程、後期課程のつながりを強化していきましょう。

私事ですが、平成31年３月末をもって大阪府立大学を定年退職することになりました。大阪府立看護大学、大阪府立大学看護学部、大阪府立大学地域保健学域看護学類で多くの学生、教職員の皆さまにお会いし、さまざまな形で叱咤激励していただいたことが今の私の最大の宝物です。退職後も大阪府立大学看護系同窓会のますますのご発展を見守り、応援して行きたいと思っています。

本当にありがとうございました。

会長挨拶

大阪府立大学　看護学部４期生・大学院博士前期課程８期生　**真砂 隆太朗**

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

本会は平成30年に創立20周年を迎え、記念総会を開催することができました。辻学長、上野地域保健学域看護学類長をはじめ、ご臨席賜りました恩師、校友会関係の皆様、そして同窓生の皆様に改めて感謝申し上げます。皆様、忙しいにもかかわらず、108名の方に参加していただくことができました。

特別講演として、元読売テレビアナウンサーで、現在は癌患者やそのご家族の支援に精力的に取り組んでおられる清水健氏を講師にお迎えして、家族の立場で患者様に寄り添うことについてお話しいただきました。講師のお話をお聞きすることで、日々の活動に向かう活力をいただけたと感じております。同窓生の皆様は領域や立場にかかわらず、患者様やそのご家族の療養や生活を支えることに、日々取り組んでおられると思います。今後も看護分野の講師だけではなく、幅広い視点から講演会を計画し、力強い講師をお呼びしていきたいと思っております。

また、総会ではお子さん連れでも参加していただき、講演等はお子さんと離れて聞いていただけるように保育室を準備しております。お仕事を継続されているかどうかにかかわらず、ぜひ参加していただき、同級生や恩師との再会、先輩後輩での交流の場として楽しんでいただきたいと思います。

今後も役員一同、会員や在学生の活動のサポート、会員同士のネットワークづくりに貢献していきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

清水先生の講演を受けて

大阪府立大学　看護学類　２期生　　高野町役場　社会福祉課　**岡　佳秀**

この度、大阪府立大学看護学系同窓会創設20周年という素晴らしい式典において、講演を通して「清水健」を知れたことに感謝します。その熱い想いと行動、そして笑顔で未来に向かっていく姿勢に力を貰いました。

今回の講演まで、私は清水先生を知りませんでした。さらにこの時期は私自身の辛さのことで頭が一杯だったため、講演前は「元ニュースキャスターの人が看護の同窓会で何を伝えようというのか」と批判的に考えていました。

しかし清水先生が自分の体験をありのままに、感情を隠すことなく話す姿を見るにつれて、その悔しさや熱い想いが伝わってきました。

私はこの講演の時期、職場での人間関係に悩んでいました。上司に自分の考えがうまく伝わらず、何をしても裏目に出る毎日でした。「何を言っても伝わらないなら諦めて黙っていよう」「こんなに辛い思いをして続けることに何の意味があるのか」と仕事への意欲が日々薄れていくのが分かりました。

そんな折、この講演で清水先生の体験を聞いたとき、自分は何とつまらないことで悩んでいたのだろうと思いました。どれだけ頑張っても、どれだけ願っても変えられない困難があり、それでも必死で立ち向かった清水先生。私には想像もつかないほど辛い思いがあったはずなのに、それでも笑顔で未来に向かっていくその姿に、私は先に進む勇気を貰いました。

人間１人の力は遠くまで届かなくても、想いを声にして伝えることでより大きく、より遠くへ届くようになる。困難に目を背けず、自分の感情に素直になって立ち向かうことで変えられるものがある。私はもう一度、笑顔で未来に向かってみようと思います。

同窓会に参加して

大阪府立大学大学院　看護学研究科　博士前期課程　生活支援看護学領域
地域看護学分野　修士論文コース　**寺田　有里**

私は昨年度に大学を卒業して、今年度博士前期課程に入学して同窓会のお話を聞き、参加させていただきました。

清水健さんのお話を聞いて、看護師の担う役割の重要性を感じました。患者さんの死を迎えた家族の苦しさやつらさは想像を絶するもので、どれほど時間が経ってもなかなか簡単に癒えるものではないということを改めて感じました。そんな思いをする、そしてしている家族とどう寄り添っていけばいいのかと考えるきっかけとなりました。

その後は久しぶりに会った友人達と話すことができ、とても楽しい時間を過ごせました。また、私と同じように学類を卒業してすぐ修士課程に進学した先輩や、同じゼミの保健師の方ともお話しする機会があり、今迷っていることや気になっていることもお話を聞くことができました。このように普段なかなかお会いする機会がない方や先生方ともお話することができるのでとても有意義な時間となりました。

次回もぜひ参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

2018年度定年退職教員最終講義

2019年３月末をもちまして、上野昌江教授、中村裕美子教授、堀井理司教授が定年退職を迎えられます。
それぞれご担当の講義にて最終講義が開催されました。

生活支援看護学領域　地域看護学分野　教授　上野　昌江 先生

「公衆衛生看護活動が芽生えた大阪から今後の保健師活動への発信」

2019年１月28日月曜日１コマ目の公衆衛生看護学概論の授業はいつもと変りなく始まりました。授業の前半では、看護職として今注目すべき視点の１つ「健康の社会的決定要因：健康格差」について事例を交えながら詳しくお話くださいました。その中で、ACE：逆境的小児期体験についてご紹介くださり、看護に携わるうえで重要視すべき視点、さらには公衆衛生看護学に対する展望をご教示くださいました。授業の後半では、先生ご自身のキャリアパスについて、当時の写真（学生時代に実習で桃太郎を演じた姿や白衣姿など）を交えながら、学生、看護師、保健師時代に大切にしてこられたことをお話しくださいました。最後の花束贈呈の場面では、プレゼンテーターの学生や教員のことを皆さんにご紹介くださる先生のさりげないご配慮がとても印象的でした。多くの学生や教員の盛大な拍手のなか講義は終了しました。

講師　根来　佐由美

生活支援看護学領域　在宅看護学分野　教授　中村裕美子 先生

「在宅看護の展望」

2019年１月22日（火）４限に、在宅看護学分野教授中村裕美子先生の最終講義が行われました。

前半は「在宅看護の展望」と題し、在宅医療の背景・施策、訪問看護ステーションの現状について説明され、在宅看護の展望について「在宅看護は、期待され拡大する」という先生のお考えとその課題についてご講義いただきました。

後半は先生が保健師として関わった思い出深い対象者さんのお話、恩師からの教え、大阪府立大学での仕事についてなど、先生のこれまでの歩みについて貴重なご経験をお話くださいました。印象的だったのは、忙しい時でも恩師からの「地域からの仕事は断らない」という教えを大切にしてきたというお話です。多忙な中でも前向きに仕事をこなす先生の心の中には、その教えがあったのだと納得しました。学生には「人生の中で出会う仲間を大切に」とのメッセージを送られていました。講義終了後は、各看護学領域からの花束贈呈後、聴講された先生方と写真撮影を行われ、大変和やかな雰囲気でした。

助教　小泉　亜紀子

療養支援看護学領域　感染看護学分野　教授　堀井　理司 先生

「感染症状のアセスメント」

長年にわたり大阪府立大学（大阪府立看護大学含む）で教壇に立たれていました堀井理司教授の最終講義が、2019年１月17日に行われました。「感染症状のアセスメント」と題し、さまざまな感染症の特徴や症状など、多岐にわたりご講義されました。なかでも急増している風疹については、国の施策を踏まえて説明され、専門職者としての責務を再認識させられる内容でした。また流行の様相を知っておく重要性を何度も説かれ、静かな口調のなかに感染症看護への熱い思いと学生の成長への期待を感じました。各領域からの花束贈呈後、盛大な拍手で終了しました。

助教　中村　雅美

平成30年度に就任された先生方からのご挨拶

基礎看護学領域 看護管理学分野

准教授　**益　加代子**

2018年４月に基礎看護学領域 看護管理学分野に着任いたしました、益(えき)と申します。臨床での看護管理者経験を経て大学教員となり、２つの大学を経て大阪府立大学へ着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

先日、私が担当する看護管理学の講義のなかで、学生さんが抱く看護管理学のイメージを聞いてみると、「ウエの人」「エライ人」が勉強するものだという答えが返ってきました。果たしてそうでしょうか？と講義は展開していくのですが、学生にとっては最も「距離」を感じる看護管理学を、実は日常の看護実践の基盤なのだと気づいてもらいたいという思いで、学類教育に携わっています。

また、私は経済連携協定により来日した外国人看護師・介護福祉士候補者の支援活動を精力的に行っていたことをきっかけに、日本で働く外国人看護師・介護福祉士を対象とした研究を行っています。近年、ケア領域における外国人材の受入れが進んできていますが、受入れにあたっては、外国人労働者、そして受入れ施設側双方にさまざまな課題があります。こうした課題の解決に資する研究をすすめていきたいと考えています。それと同時に研究活動を通して築いてきた関係を、教育にも繋いでいきたいと考えています。これからの保健・医療・福祉の現場では「多様性」が重要なキーワードになります。学生のころから異文化接触の機会を増やし、異文化間能力を向上させ、多様な対象者に、多様な従事者と、そして多様な場において活躍できる人材の育成に貢献していきたいと考えています。白鳥会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

生活支援看護学領域　老年看護学分野

准教授　**九津見　雅美**

白鳥会の皆様におかれましてはますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。2018年４月より生活支援看護学領域　老年看護学分野に着任いたしました、九津見雅美と申します。

私は京都大学医療技術短期大学部(現：京都大学)を卒業後、大阪市立保健専門学校(2005年に閉校)に進学し星ヶ丘厚生年金病院(現：地域医療推進機構星ヶ丘医療センター)に勤務したのち、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻に進学しました。その後介護老人保健施設での勤務経験が'認知症高齢者と出会いどのように関わらせていただくか'ということが私の大きな課題となり、教育・研究において取り組んできております。

研究者として当事者との関わりを有するようになり数年経ったころ、自身がどんな視座に立ってどこを向いて当事者活動に参画していけばよいのかがわからなくなったことがありました。そんな思いを親しくしていた当事者に相談した時に「寄り添うとかしなくていいし、そんなことをしてほしいと思っていない。ただ患者と同じ景色をみてくれたらいい」と言われました。私はその言葉を聞いた時、当事者のために何かしないと！という勝手な思いを当事者に押し付けようとしていた自分に気づき恥ずかしくなりました。また同時に肩の力が一気に抜けたことを今も鮮明に覚えています。その方は残念ながらその言葉を交わした２年後に逝去されてしまいましたが、いただいた言葉を遂行できるよう心がけています。

看護において患者に寄り添う、共感する、という言葉は多用されますが、その具体は個々の看護者によって異なると考えます。具体のありようは看護観によって形作られると思いますが、その看護観の醸成の一助となるような実習経験ができるよう学生を支援していきたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

生活支援看護学領域　在宅看護学分野

助教　**小泉　亜紀子**

2018年４月より、生活支援看護学領域　在宅看護学分野の助教に着任いたしました小泉亜紀子と申します。医療の現場では在院日数の短縮化が進み、退院調整・退院支援の必要性が言われもう随分になります。わたしも病院で長く働き、病棟看護師として神経難病患者さんの退院支援に関わるうちに在宅看護の世界に興味を持つようになりました。その後、訪問看護師となり様々な患者さんのケアを行ううちに、患者さんを"患者"として捉えるのみでなく、"生活者"であることに重点を置き支援することの出来る在宅看護こそ自分のやりたかった看護だと感じるようになりました。本学の修士課程で在宅看護学を学び、卒業後３月まで訪問看護師として勤務し、縁あり４月から再び大学に戻って参りました。

在宅看護学はまだまだ新しい分野であり、高齢化が進む中その必要性を叫ばれつつも、それと同時に様々な課題を抱えていると感じています。だからこそ、これからの看護を担う学生さん方に、在宅看護の素晴らしさを少しでも知ってもらえたら、という思いで日々の業務を行っています。母校で働けることに感謝し、教授下さった先生方から教わったことはもちろん、これまで出会った患者さん方に教えていただいた多くのことを、新たに出会う方々と共に、職務に生かしていけるよう努力いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

生活支援看護学領域　精神看護学分野

助教　**柱谷　久美子**

2017年４月より生活支援看護学領域の助教に着任いたしました、柱谷久美子と申します。

国立循環器病研究センターや兵庫県災害医療センターでの看護経験において、リエゾン精神看護に興味を持ち、大阪府立大学大学院博士前期課程を修了いたしました。

私は、一般診療科の看護経験において、身体的な看護と精神看護を結びつける難しさと重要性を感じるようになりました。循環器科では、植え込み型除細動器の誤作動を気にされながら生活をされる方などへの看護、また、救急科では、自殺未遂をした方や精神疾患を有する生命危機にある方などへの看護を通して、身体的な看護と精神看護を結びつける難しさと、その方々を支え、ともに今後を考える看護の大切さを教わりました。

精神障害者の地域生活への移行がすすめられており、今後、精神不調をもった人々が地域で生活し、一般診療科を受診する機会が増えることが考えられます。一方、精神科医療においても、高齢化に伴い精神疾患を有する方の身体疾患の合併も今後増えていくことが考えられます。そのような中、看護を志す学生さんに、身体的な看護と精神看護を結びつけて考える大切さを伝えることができるよう尽力して参ります。

何卒、ご支援ご指導の程、よろしくお願いいたします。

大阪府立大学大学院看護学研究科 大学院生募集のお知らせ

■ 看護情報学分野

自身が関心を持っている臨床、職域、地域の健康問題に関して、関連する要因を明らかにすること、介入の効果を検証することはとても重要で､EBN（エビデンスに基づいた看護）、EBHC（エビデンスに基づいた保健活動）につながります。

看護情報学分野では、疫学的研究手法を用いた量的研究により、健康問題に関連する要因の検証や、健康問題への介入効果の検証などを行います。看護情報学に関連する研究課題（下記参照）に関心がある方はもちろんのこと、量的研究の実践力を身につけたいという方を歓迎しています。

・保健医療情報を用いる研究
・情報の収集に関する研究
・情報の伝達・共有に関する研究、など

看護情報学分野のHP

■ 地域看護学分野

大学院で日頃の活動を見直しませんか～働きながら学べます～

地域看護学分野では、修論コース、CNSコース、長期履修コースなど多様なコースを設置しています。長期履修制度(修業年限３年）を活用することで、職業を有している等の事情により、標準修業年限（２年）を超えて計画的に教育課程を履修し、学位を取得することができます。

保健師、看護師、助産師、養護教諭等として就職したのちに入学される方や、大学卒業後そのまま進学する学生が学んでいます。

授業では、文献クリティークや職場で担当している実践事例についてのディスカッション、学外での演習（出前測定会）等を行い、その学びを日々の活動に生かすことができます。また、活動の中で生じる課題について学びを深め、修士論文・課題研究に取り組みます。

申請資格等、詳しくは下記URLをご覧ください。
（https://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra/introduction/field_08/）

■ 母性看護学分野

高度な教育研究能力と実践力を身に着けるために母性看護分野で一緒に学びませんか！

大阪府立大学大学院看護学研究科母性看護学分野には修士論文コースがあります。長期履修制度（修業年限３～４年）を活用することで、仕事・育児・介護をしながらでも学ぶことができます。現在、博士前期課程には４名が在籍し、自分達の関心のあるテーマで研究に取り組んでいます。大学院では、日本のみならず海外での母性看護の動向や、最新のエビデンス、臨床現場でのリーダーのあり方や考察、効果的な発表資料作成やプレゼンテーション方法について学ぶことができます。また、母性看護学勉強会で修了生や学類生との交流なども行えます。意欲のある方、母校の大学院で一緒に学びませんか！
（http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra/introduction/field_05/）

■ 老年看護学分野

老年看護学分野では、加齢に伴う様々な影響を受けながら自分らしく生き抜こうとする高齢者と家族への看護を探究し、理論的基盤の構築を目指しています。高齢者看護実践の場は急性期病院から施設、在宅と幅広く、ヘルスプロモーションや介護予防、慢性疾患や認知症と共に生きることへの支援、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）と看取り等、多岐にわたる様々な健康課題への対応が求められています。現状の高齢者看護に疑問をもっている方、いずれは誰もが辿る道である「高齢者の世界」に関心を持ち看護を極めたいと思っている方、さらには高齢者が苦手で自分の看護に自信が持てない方等、老年看護学分野はどなたでも歓迎します。博士前期課程（修論コースと専門看護師コース）、博士後期課程とも長期履修制度を適用し、働きながら自分のペースで学ぶことが可能であり、ライフワークとなるような研究の礎を築けるよう支援していきます。ぜひ大学院で、キャリアアップを目指すチャレンジをしてみませんか。

白鳥会のみなさんへ

大阪府立大学 校友会会長　**津戸　正広**

白鳥会のみなさん、いつも校友会へのご支援ありがとうございます。校友会はかつての大阪府立大学全学同窓会を発展させて設立されましたが、昨年９月からいよいよ10年目を迎えています。大阪府立大学の各単位同窓会・地域同窓会などとの協力を通じて、大学との連携がより緊密になり、活動内容が充実し、現役学生との交流の機会も増え、財政的基盤も強固になっています。これからますます交流の機会を増やし、白鳥会のみなさんにとって身近な存在になれるよう活動を深めたいと思います。

校友会は、次のような活動をしています。（1）年２回の評議員会・理事会の開催、（2）活躍する同窓生を招いて講演していただく校友懇話会、（3）卒業生による就職セミナーと懇談会、（4）学業優秀な学生への白鷺賞副賞の贈呈、（5）ビジネスアイデアコンテストでのグランプリ校友会賞の贈呈、（6）地域同窓会・単位同窓会への支援金支出、（7）卒業生と在学生が夢を語って交流する「夢こもんず」の開催、（8）在学生の保護者のためのオープンキャンパスの支援、（9）ホームカミングデーの共催などです。

大阪府立看護大学看護学部・看護学研究科、大阪府立大学看護学部・看護学研究科、そして大阪府立大学看護学類・看護学研究科が築いてこられたブランド力は、大阪府立大学及び校友会にとってかけがえのない資産です。このようなブランド力を活用し継承し発展させていくために、各同窓会・同窓生がより一層気軽に交流できる機会を増やしていきたいと思っています。白鳥会のみなさんには、引き続き暖かいご支援とご助言をいただければ幸いです。

次のステップへ

東京同窓会　会長　**山田　昭正**

一昨年「ファーストペンギン」と題して寄稿させて頂きましたら昨年（H30年）の新年会には真砂会長や上野先生、杉本先生からのお声掛けもあり７名の先生、役員、会員の皆さんに参加頂きました。

そして９月に開催された「白鳥会20周年記念総会」にお招き頂き、今まで東京同窓会に参加頂いた皆さんと旧交を温めると共に、東京同窓会のPR時間を頂き、本年２月の東京同窓会でお会い出来る様にとお願い致しました。

タイミング的に平成31年２月の状況は書けませんが、白鳥会のテーブルを沢山の皆さんが囲んでいる会場を想像してます。東京地区在住の皆さんの交流の場として是非東京同窓会をご活用下さい。Step By Step 一つづつ積み重ねていきたいと思いますので宜しくお願いします。

20周年記念の懇親会では東京同窓会とは違いお子様連れの会員の多さや会場の一画にカーペットが敷いてあったり、雰囲気の違いや若さ一杯の会場に圧倒され、細かい心遣いの運営に感心致しました。また懇親会に先立つ清水健さんの記念講演では看護学部の教育は単なる医療や看護の知識や技術の習得だけではなく、患者さんひいてはその家族の方への思いやり、人間性の涵養という奥深い研鑽が必要である事を改めて感じさせた講演でした。皆様の努力に頭の下がる思いです。

今年の会報で府大Webで取り上げられた下田佳奈さん（聖路加看護大学）の活躍を会報でも紹介させて頂きました。こうして交流の輪を広げて行き、また次のステップに向かってご一緒に進んで行きたいと思っています。

東京同窓会の活動状況はホームページ（https://sites.google.com/a/oputokyo.net/index/）でご覧になれます、一度覗いてみて下さい。

斐文会とは

大阪女子大学同窓会斐文会　理事長　**仁科　亮子**

大阪女子大学同窓会斐文会は、大正13年設立の大阪府女子専門学校、および学制改革後の大阪女子大学の同窓会です。初代校長 滝村斐男氏の「斐」の名をいただき、昭和３年に誕生、昨年、卒業生260名が集い、創立90周年を祝いました。

会の活動の概要をご紹介します。

単科大学でまとまりが良かったこともあり、約40人単位のクラスが基盤となっています。29年度の調査では、実に122のクラスが同級会を開催していました。

このクラスから評議員各２名を選出し、その中から理事を選出する（評議員、理事の任期は原則２年）という組織運営が、会の大きな特徴と言えます。現在、評議員約400名から選ばれた理事16名で、支部長会、評議員会、総会、講座を開催し、会報を発行しています。運営のすべての事務は、卒業生でもある非常勤事務員を配置した事務局が担います。

現在の活動の大きな柱は、年２回の会報発行です。卒業生約13,000人のうち、約３分の１に当たる約4,600名の会員に斐文会報を届けています。全国の会員とのコミュニケーションツールとして、クラス会、各支部報告はもとより、可能なかぎり地域や各分野の会員活動など現況を届けることが編集の基本です。

さらに、全国に支部組織があり、25支部が活動を続けています。

最年少で32歳の会員年齢層は上がっていくばかりですが、会の歴史と伝統を大切にしつつも、変化する時代に対応し、次世代に引き継いでいけるよう、貴会はじめ校友会傘下の同窓会と連携し、運営に適切に取り組みたいと考えております。

今後ともより一層のご協力、ご支援をお願い申しあげます。

大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）平成29年度会計報告

（平成29年４月１日～平成30年３月31日）

前年度繰越	9,433,069円
収　　入	1,659,368円
支　　出	2,359,258円
収支差引額	－699,890円
（平成30年度へ繰り越し）	8,733,179円

収入の部

科　　目	金　額
終身会費　平成29年度入学者名分（＠10,000×130人） 上記以外　14名分（＠10,000×11人）（＠20,000×３人）	1,463,736 （※終身会費の振込み手数料 6,120(円)、送金料 144（円）を除く）
総会参加費　（＠3,000×49人）	147,000
その他　（受取利息、換金）	48,632
合　　計	1,659,368

支出の部

科　　目		金　額
寄附金		700,000
つばさ基金	600,000	
杏樹祭実行委員会寄附金	100,000	
研究助成金　（＠50,000×２人）		100,000
総会費		838,111
業務委託費		494,607
会議費　（年３回実施）		59,922
消耗品費		5,536
人件費		59,000
その他　（支払手数料、式典・校友会等出席経費等）		102,082
合　　計		2,359,258

以上の通り会計報告致します。

平成30年３月31日

大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）
会長　真　砂　隆太朗　　会計　冨　田　亮　三　　山　内　加　絵

平成29年度同窓会会計の諸帳簿、書類などの監査の結果、適正に執行されていることを認めます。
大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）
会計監査　安　本　理　抄　　勝　山　　愛

白鳥会看護研究助成

● 募集について

白鳥会では、臨床で研究に取り組んでいる方、これから始めようとしている方を応援しています。平成31年度分の看護研究助成の詳細については、決まり次第HPに掲載いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

● 2017年度研究助成者研究報告

看護学研究科博士後期課程　看護管理・教育学分野

長野　弥生

私は昨年度、博士前期課程の看護教育学分野で、「看護実践における新人看護師のモデリングの様相」というテーマで質的研究に取り組みました。新人看護師20名に半構成的面接を行い、修正版Grounded Theory Approachにより分析した結果、新人看護師のモデリングは、《先輩を観察する》ことで《観察したことを考える》ようになり、考えたことについて《試行錯誤を繰り返す》ことをしながら、《自分の看護実践を形成する》段階を踏んで、自身の行動パターンとして遂行するというプロセスが明らかになり、観察の機会を提供することや、省察を支援する重要性が示唆されました。

本研究は2018年８月に横浜で開催された日本看護学教育学会学術集会で発表することができ、発表を通して、臨床で活用されるような研究へと発展させていく必要性があると実感しました。本研究助成による支援を糧に、今後も研究活動に邁進し、より良い看護教育の探求に努めていきたいと思います。

看護学研究科博士後期課程　地域・精神看護学分野

眞壁　美香

この度は博士前期課程在学中に白鳥会看護研究助成を頂き、ありがとうございました。学会発表や論文投稿の際に、研究助成を活用させて頂きました。

修士論文では、「乳幼児期の子どもを育てる母親の家庭内における事故予防行動の実態と認識の関連」をテーマに、1歳6か月児を養育するお母様方にアンケート調査を実施しました。子どもの事故予防に関する認識についてHealth Belief Modelを用い、事故経験や育児負担感等と事故予防対策行動の関連を検討しました。その結果、事故予防に関する認識の一部と予防対策行動の関連が明らかになり、より実行可能で具体的な予防対策を伝えていくことが重要であると考えました。また、母親の育児負担感と予防対策行動や子どもの事故経験との関連があったことから、子育て支援の役割の大きさを痛感しました。今後も研究を続け、効果的な指導や教育方法、母子保健活動における支援について考えていきたいと思います。

杏樹祭への寄付に関する報告書

大阪府立大学　羽曳野キャンパス
第25回杏樹祭実行委員長　**稲村　大和**
杏樹祭実行委員会一同

この度は杏樹祭への寄付、誠にありがとうございました。ここに杏樹祭での寄付金の活用について報告いたします。はじめに、杏樹祭の一大イベントであり、毎年多くの方々に足を運んでいただく「吉本お笑いライブ」です。今年は、濱田裕太郎・span!・プリマ旦那・コウテイの4組の芸人の方々にお越しいただきました。これらの芸人の方々を手配するにあたって、打ち合わせを繰り返し、チケットの販売から控室の準備、音響や照明の調整など、実行委員で協力し、運営に励みました。その結果、たくさんの方々にお越しいただき、大盛り上がりのお笑いライブとなりました。他では、キャンパスの装飾やオブジェの制作に使う紙やテープなどの製作費や機材の運搬費に寄付金の一部を使用させていただきました。

今年の杏樹祭は「杏muse」という言葉をテーマに掲げました。「amuse」という言葉には人を「面白がらせる」や「楽しませる」といった意味を持ち、杏樹祭実行委員会のみならず、杏樹祭に来られる方々や友好祭実行委員会など、杏樹祭に携わるすべての方々に楽しんでいただけるような志を持って運営に取り組んで来ました。その結果、委員全員が一丸となり、多くの人が笑顔になり、そして驚くほど楽しい学園祭を行うことができました。

白鳥会の皆様をはじめ、学生グループの皆様、後援会の皆様のご協力なしには成功しなかったと、杏樹祭実行委員会一同、心から感謝しております。ご支援、誠にありがとうございました。

事務局からのお知らせ

○白鳥会のホームページをご覧ください

皆様に同窓会の活動や母校の“今”を知っていただくために、随時、情報を発信しております。大阪府や大阪府下の自治体からの依頼で常勤・非常勤保健師や養護教諭の採用情報も掲載しております。ぜひホームページをご覧ください（QRコード参照）。

○同窓会役員を募集しています

同窓会の運営にご協力いただける方を募集しております。今後、ますます同窓会活動を発展させるためには、皆様のお力が必要です。主な仕事は、会報誌の作成、同窓会総会の企画・運営です。同窓会を発展させていくためにも、多くのアイデアをいただき楽しく運営をしていきたいと思っています。ご希望の方は、白鳥会HPからお問い合わせください。

○同窓会費（終身）未納の方へ

同窓会活動は、会員の納める会費で運営しています。未納の方には、年に１回この会報誌と一緒に納入のお願いの文書と振込用紙をお送りさせていただいております。ご協力よろしくお願いいたします。

○住所や姓名変更のお願い

例年、会報誌や同窓会総会の案内を送付していますが、宛先不明の方が多くなっております。住所や姓を変更された方は、白鳥会HPから変更のご連絡をお願いいたします。母校の情報をお届けしていきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。

○翔システムにご登録ください

大阪府立大学同窓会である校友会には“翔”というネットワークシステムがあり、様々な交流・情報交換が可能です。大阪府立大学校友会HP（http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp）から登録が可能です。

○創設20周年記念品送付のご報告

白鳥会の創設20周年にあたり、平成30年６月に記念の品として会員の皆様にボールペンをお送りしました。

〈白鳥会HP　QRコード〉

平成30年度　同窓会役員の紹介

会　　長：真砂隆太朗
副 会 長：浮舟　裕介、阿川　勇太、浅井　克仁
書　　記：野中　翔太、髙　　知恵、柱谷久美子
会　　計：冨田　亮三、山内　加絵、勝山　　愛
会計監査：安本　理抄、長野　弥生
事務局長：山口　舞子
事 務 局：深山　華織、根来佐由美、中村　雅美
　　前田　一枝、宇田川直子、小泉亜紀子
　　眞壁　美香、永吉　紀子
新学年幹事
学 類 生：大野　生渡、中東　美里、横山　紗永
院　　生：淡路　深雪、木村　智恵、杣木佐知子

編集後記

看護学部第５期生　野中　翔太

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

やわらかな日差しが心地よく感じられる季節になりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？

今年度は白鳥会創設20周年という節目の年となりました。ここまで続けてこられたのも、皆様の日頃の御活躍によるものであると感じております。これからもさらなる発展を願っています。

最後になりますが、御多忙の中会報誌に御寄稿くださいました皆様に心から御礼を申し上げます。